

〔3番 谷口敬信 登壇〕

○3番（谷口敬信）

おはようございます。それでは、議長のお許しをいただきましたので、一般質問に入らせていただきますが、その前に、少し私事でございますが、私は高山市内の病院の外科において、月に一度、再診治療を受けておりました、また、2ヵ月に一度、内科のほうで検診を受けております。

そこで、最新の高度な検査用医療器具の使用、高価な治療薬の接種、電子カルテ等の共有を体験していますので、それを踏まえて、今回の一般質問に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず最初に、飛騨市民病院情報システムについてお尋ねいたします。平成16年2月、飛騨市合併以来、飛騨市民病院は、経営難、建物の老朽化及び医師不足の問題を抱え、主に飛騨市神岡町、高山市上宝地区及び奥飛騨温泉郷を含めた、いわゆる高原郷の広域の住人の皆様に高度な医療の提供ができる総合病院及び救急指定病院として、飛騨市はあらゆる手段を講じて存続に向けて努力を続けております。

また、医療器具といたしまして、電子カルテの導入、MRI検査装置、CT検査装置80型マルチスライスなど、最新鋭の設備投資がなされています。先進の高度な医療設備には、多額の投資が必要だとは思いますが、そのうちの病院情報システムについてお尋ねいたします。

1、資料の1ですけれども、病院システム更新の入札についてお尋ねします。入札情報公開中の昨年9月10日入札執行、12月議会、予算特別委員会で専決処分された案件の病院情報システム更新。入札参加者は、株式会社ソフトウェアサービス1社のみの参加で、契約金額は1億3,676万円（税抜き）です。それで、業務内容の内訳、予定価格1億4,265万円（税別）の根拠（見積もり積算等）及び入札参加者が1社となったと考えられる理由をお聞かせください。

2、平成16年度飛騨市合併後の初回導入時期から令和3年までの事業内容と投資金額について、インターネットによる病院沿革を閲覧したところ、平成21年1月1日、病院総合情報システム電子カルテシステム運用開始。平成26年3月24日、電子カルテ及び関連システム更新事業とありますが、その時期の主な事業内容の内訳と入札情報、入札参加者、契約金額をお聞かせください。

3、電子カルテなどの診療システムのサイバー対策について。新聞の記事によるものですが、サイバー攻撃によって電子カルテなどの診療システムの障害を受けた場合でも、診療を続けられる体制を整えている病院は3割にとどまることが病院団体の全国調査の中間報告で2月16日にわかったという記事がございました。そこで、飛騨市民病院は、今回の情報システム更新に含めて、サイバー攻撃より対策はとられておられますか。

以上3件について見解をお示しください。以上です。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

（「議長」と呼ぶ声あり） ※以下、この「議長」と呼ぶ声の表記は省略する。

◎議長（澤史朗）

佐藤病院管理室長。 ※以下、この議長の発言者指名の表記は省略する。

〔病院管理室長 佐藤直樹 登壇〕

□病院管理室長（佐藤直樹）

おはようございます。

それでは、今ほどの飛騨市民病院情報システムについて、まず1番の病院情報システムの入札内容についてお答えさせていただきます。

令和3年9月10日、入札執行の病院情報システム更新事業の業務内容につきましては、当初予算のご審議の際に提出しました、令和3年度、予算主要事業の概要に記載のうちの電子カルテサーバー一式、クライアント一式、オーダリングシステム一式、関連ソフト一式であり、予定価格は見積書によるものです。入札が1社となった理由については、発注者である飛騨市民病院としてはわかりかねるところですので、あくまでも推測としてお答えいたします。病院情報システムは、患者さんの受付から診療一部負担の請求と、それに伴う保険請求等病院運営に必要な一連の業務を一括して管理するものであり、単一の物品を購入して、据え付ければ完了するような備品購入とはわけが違います。

システムの構成は、主に、診療情報の記録や検査、投薬等の指示を行う、オーダリングシステムと請求関係を担う医事会計システムをサーバーで一元管理し、各部署のクライアントで操作することになりますが、この基幹システムと各部署で稼働している部門システムが接続されることでようやく業務が成立します。このため、他のベンダーでは数億円の初期費用において関係するシステムと設定の総入れ替えが生じることから、他の応札者がなかったものと推測します。

また、医事会計システムにつきましては、平成29年度に税別806万1,000円で更新しているため、今回はこの部分を除いたシステムの更新となっています。

続いて2番の初回導入時期からの事業内容と投資金額についてお答えします。飛騨市民病院では、先ほどの答弁にありました病院情報システムの全てが機能するシステム一式を平成21年度に導入しております。納入業者の選定にあたっては、プロポーザル方式を採用しており、株式会社石川コンピューターセンター、こちらはNECの特約店になっております。株式会社富士通中部システムズ、株式会社ソフトウェアサービスの3社が参加しており、審査の結果、税別2億7,153万9,000円で株式会社ソフトウェアサービスに決定したものです。

平成27年度には、耐用年数が経過していたサーバー、クライアント及び部門システム接続等を総額税別1億1,166万7,088円で更新しております。業者選定にあたっては、トーマツの経営指導により、発注を22契約に細分化した経緯から、内容により指名競争入札と随意契約となっており、指名競争入札においては、予定価格により2社から3社を指名の上、執行されております。それぞれの契約金額については、平成27年度、企業会計事業報告書の60ページ、61ページに記載のとおりです。

平成29年度には医事会計システムを税別806万1,000円で更新しましたが、全体システムの一部であるため、随意契約となっております。

続きまして、3番の診療システムのサイバー対策についてお答えします。近年、ランサムウェアによるサイバー攻撃が世界各国で多発しており、医療機関を標的としたサイバー攻撃による被害も増加していることから、厚生労働省をはじめ、関係団体等からも注意喚起がされているところです。医療機関のサイバー攻撃では、診療情報の全てが盗み出され、診療が停止するなど甚大な被害に繋がるばかりか、個人情報への漏えいも大きな問題になりかねません。サイバー攻撃を受

けた医療機関の共通点や法則性は見だし難いところですが、セキュリティー対策の遅れや意識の欠如は否定できないものと考えられます。

飛騨市民病院においては、人為的ミスが起こらないように、医療従事者が使用する電子カルテをクライアントがUSBを認識しない対策を講じており、ネットワークへの侵入対策やインシデント体制の構築等をはじめ、職員への注意喚起や啓発を随時実施して、危機管理意識を醸成するよう努めております。

しかしながら、サイバー攻撃に万全と言える対策はあり得ないことから、基本的には他院で発生したサイバー攻撃の手口の情報を把握し、対策内容を公言しないことに努めております。また、特定の標的とされないために、できるだけ目立たないように対応しておりますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

〔病院管理室長 佐藤直樹 着席〕

○3番（谷口敬信）

ありがとうございました。私のあまり得意の分野ではないのですが、予定価格ですか。あと、今のシステムの更新に関する1億4,265万円の予定価格は見積書によるもので決定されたということなんですが、通常私のような建築とか土木工事によりますと、図面とか仕様書がありまして、数量、歩掛、単価、特殊な材料につきましては大体3社見積もりを取り寄せ、積算を行い、予定価格を決められていると思います。今おっしゃった見積もりによるものというのは、1社だけの見積もりなのか、部分、部分で出された見積書を合わせたような形の見積もりで予定価格を決められたのか。それと、そういったこのような高度な医療器具とか、今の場合ですと情報システムのそういったもののネットワークの図面とか仕様書、そういったものもあるということですか。それとも、そういったものに関してはコンサルで何とか数量とかを出していただくとか、そういったことをなされているんでしょうか。それとなく教えてください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□病院管理室長（佐藤直樹）

物品購入に関しましては、建築のような単価本があるわけではありません。そういった中で、基本的には物を買うだけのものでしたら、数社から見積もりを取ったりして、仕様書を作成したりすることもあります。今回のような病院の情報システムにつきましては、正直なところ職員が1つ1つ積み上げて作り上げていけるような規模ではありません。先ほど説明を申し上げましたように、院内にある医療機器の部門システムとかとも繋がっている部分がありますし、そういった部分の構築するための、図面というのは持ち合わせておりますが、そこに対して幾らかかるんだというのは業者からの見積もりに頼らざるを得ないというのが実情です。

○3番（谷口敬信）

何となくぼやっと理解することができました。

平成16年からこのシステムを改修されて、今でちょうど令和4年ですから、17年、18年くらいになりますかね。その間で、大体、今、ザグザグと計算したんですけども、税込みの金額でおっしゃったのかどうかちょっとわからなかったんですが、税抜きだとしたら5億2,000万円、税込みだとしたら5億7,000万円から8,000万円ぐらい。約6億円近く投資して

いるということになると思います。それを17年で割ると大体、年間2,000万円から3,000万円強くらいになると思うんですけども、まず、市民病院に関しては規模的に年間14億円ぐらいの病院事業だと思います。

民間ですと事業の売上規模に応じた身の丈にあった設備投資が原則なんですけれども、やはり市民病院は市民と近郊の住人の大切な生命を預かっている大切な事業でございますので、今回の設備投資に関しましても、今後のこともそうですが、慎重にかつ、計画的に無理のない範囲で進めていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それと、続けて聞いていいんですね。電子カルテのサイバー対策なんですけれども、もし、このセキュリティーに対する維持管理の年間の予算というのは、ある程度使っておられるんでしょうか。お答え願います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□病院管理室長（佐藤直樹）

セキュリティーだけで切り分けてということにはなりません。電子カルテ一式の補修管理の中で賄っております。ただ、今回も電子カルテを更新したことや機器とかも新しくなったことで、現時点では最新のバッチが割り当てられているということで、ちょっと安心な体制にはなっております。

○3番（谷口敬信）

聞くまでもなく当然のことだと思いますが、万が一、データが損失したということがあった場合の、バックアップデータセンターとか何かありますよね。そういったところを用いて復旧するということは、一応可能なんですかね。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□病院管理室長（佐藤直樹）

先ほども申し上げましたように、あまり詳しい形でのことはお伝えできませんが、二重にデータがバックアップできるような体制は取っております。

○3番（谷口敬信）

はい、分かりました。それで、何となく安心いたしました。どうもありがとうございます。

それでは、2番目の質問に入らせていただきたいと思います。飛驒古川駅東開発に伴う駅周辺の整備についてお尋ねいたします。JR飛驒古川駅舎建て替えと周辺道路、歩道整備計画の提案について申し上げます。

JR飛驒古川駅は1934年昭和9年10月25日開業以来、約87年間、飛驒市の玄関口として通勤、通学、出張、産業、旅行、観光の役割を果たしてきました。岐阜県統計書によりますと、近年の1日平均乗車人員は、2002年、平成14年580人をピークに減少し、2017年、平成29年には426人となり、売店もなくなり駅舎もかなり古くなってきております。

また、JR高山駅は、2000年、平成12年2,436人をピークに減少し、2017年、平成29年1,507人となり、2016年、平成28年総工費43億円で新駅舎が完成し、駅前広場駅西無電柱化、駅北アンダーパス周辺整理が完了し、近郊には新しいホテルが建設または

建設計画とされておりまして、

令和4年、JR東海は環境に配慮したハイブリッド方式の新型車両を導入します。電化計画が取り止めになり、36年あまり経過する中で画期的なことであるとともに、この新型車両は希少性もあり、三市一村観光産業にとって誘客の好機でもあります。

また、今年度、飛騨高山大学（仮称）の設立、令和6年4月開校予定及び飛騨古川駅東開発計画が発表されておりまして、今後、飛騨古川駅周辺ににぎやかさが戻ってくるような気配がございました。

将来を見据えて、飛騨市の玄関口でもある駅舎の建て替えを考え、ホームは身障者を含む高齢者に優しいバリアフリー構造で東側ホームに連絡、横断する跨線橋にはエレベーターを設置し、若宮駐車場までの道路歩道整備を提案いたしたいと思っております。

それに踏まえて、近い将来、東京、大阪からリニア中央新幹線、北陸新幹線、新型車両ワイドビューに乗車して、新しくなった古川駅に観光客を迎えることができ、また、逆に飛騨古川から旅行に出かけてみたいと思っております。以上のことを、都竹市長のお考えをお示してください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔市長 都竹淳也 登壇〕

△市長（都竹淳也）

JR飛騨古川駅の駅舎の問題につきましてのお尋ねがございました。お尋ねのJR飛騨古川駅舎、それから駅の構内の跨線橋でございますが、これはJR東海の所有する不動産でございます。その整備方針につきましては、JRがお決めになっておられますし、市としてお答えする立場にはないということでございます。

ただ、この駅舎はJR高山線の中でも開通した昭和9年当時の姿をそのまま残しているという、数少ない歴史的な建物であるというふうに私自身認識しておりまして、それが評価されて、アニメ映画「君の名は。」の際に舞台になったわけですが、あのとき、実は監督の当初のイメージは高山駅だったんですが、現代的な建物に変わっていて雰囲気がないということで、それでほかの駅を探した結果、飛騨古川駅になったという経緯もございます。

駅そのものも、そうした歴史的な建物ですが、私自身は飛騨古川駅は飛騨古川の雰囲気にマッチしているのではないかと思いますし、申し上げたように文化財的な価値もあるということですので、私としてはできるだけ現在の形で保存、活用していただきたいというのが意向です。

先日、JR東海の皆様が多機能型の券売機の設置のご説明においでになった折にも、会話の中で私からそのようなことを申し上げまして、貴重な建物なので何とか今の外観を残す形で飛騨古川駅については維持してもらいたいというようなことを申し上げたところでございますので、そのようなことをご承知をいただきたいと思っております。

〔市長 都竹淳也 着席〕

○3番（谷口敬信）

よく市長のお考えが分かりました。私は逆に高山駅が新舎屋になったときに、モダンすぎて小京都高山にはふさわしくないなど、最初は思いました。ですが、完成後に次から次と駅西にホテルがオープンいたしまして、意外と高山駅周辺の景観にマッチしているなど、最近思うようにな

りました。

古川駅はそういった都竹市長の考えで、昭和9年からの建物で、この高山線では特に残っていないのではないかぐらいの価値観があるのではないかとおっしゃいました。それもよく分かるのですが、それを残しつつ、バリアフリーとかエレベータースイッチ等も当該JRとお話でも進めただければありがたいかなと思います。

それと、駅東開発のほうですけども、この度開発されるということと、それで公共の市の建物がありましたね。飛騨市文化交流センターとか美術館とかハートピア古川とか。西庁舎もそうですけれども、存外田舎と言ったら失礼だけど、小さい町にしては割合モダンな結構いい作りになっている。僕も建築とか土木とか興味があるんですけども、結構モダンに作ってあるなと思います。

この本庁舎も、その当時としてはRCで、もう立派な最高の商品です。あと、工業施設も結構モダンで、それに今、駅東開発でできる商業施設の建物ができたら、結構マッチするかなという思いで、私はこの提案をしてみましたので、またいいように考える方向で、古川駅も少し直していただいたり、周辺の整備に力を入れていただきたいと思います。

以上、私の質問は終わらせていただきます。ありがとうございました。

〔3番 谷口敬信 着席〕